

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2006年（平成18年）6月15日号 No. 1365

目次

●ロシアの板ガラス生産分野の現状と展望	坂口 泉 1
●統計速報	7
2006年1～3月のロシア経済／7	
2006年1～3月の日本の対CIS・中東欧諸国輸出入通関実績／8	
●ロシア企業新着情報	8
●ロシア東欧貿易会関連の行事予定	9
●CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	9

ロシアの板ガラス生産分野の現状と展望

はじめに

ロシアでは現在、建設ブームが続いており、建設用の板ガラスの需要が急増している。また、多くの外国自動車メーカーがロシアでの現地生産を開始もしくは検討しており、自動車用板ガラスの需要も増加傾向にある。そのような状況を受け、外国の大手板ガラスメーカーが次々とロシアに進出している。周知のとおり、旭硝子傘下のグラバーベルが現地生産を行っている他、日本板硝子の傘下に入ることになっている英国のピルキントンも、最近、モスクワ郊外の工場の稼働を開始した。その他、米国のガーディアンやPPGもロシアへの進出を具体的に検討している。本稿では、こういった外資の動きを中心にロシアの板ガラス生産分野の現状を鳥瞰図的に紹介する。

1. 生産をめぐる状況

生産量 ソ連時代の1985年には年間約300万tの板ガラスが生産されていたが、ソ連解体後、生産量は減少に転じ、1995年以降2003年までは年間100万t前後の水準で推移していた。2004年以降、若干生産量は増加しているが、それでも、2005年時点で約120万t程度にすぎない（『エクスパート』誌、2006.3.20-26）。